



柴野拓美関係文書の調査による日本 SF コミュニティ形成過程の研究

明治大学総合数理学部

教授 福地 健太郎

本研究は、日本サイエンス・フィクション (SF) のファンコミュニティ形成に他大な貢献をなし、「日本 SF コミュニティの父」とされる故柴野拓美氏より寄贈を受けた資料群 (以下「柴野資料」) を整理し、日本の初期(1950~60年代)SF コミュニティ形成過程の研究に資するデータベースを構築し、また最初期のコミュニティ形成過程を調査することも目的としている。

日本において、マンガ・アニメ・ビデオゲームに代表される日本発のポップカルチャーについての研究を進める上で重要なのが SF コミュニティの理解である。これは、コミックマーケットやアニメブーム、ゲームファンコミュニティの形成過程において、多くの人脈が SF コミュニティに端を発しており、また SF コミュニティで醸成された文化がそれらポップカルチャーコミュニティに移入されたためである。

しかしながら、SF コミュニティ黎明期・揺籃期についての一次資料はまとまった形で整理されておらず、その生態の解明は困難であった。特に、初期 SF コミュニティの形成・拡大に寄与したと考えられる、推理小説や大衆文学の作家達との交流や、当時勃興しつつあったテレビ業界との関係については資料が不足しており調査を阻んできた。

柴野拓美氏は日本で最初期に創刊され最有力を誇った SF 同人「宇宙塵」の主宰であり、各地の SF ファンコミュニティと精力的に交流を持ち、また作家達との幅広い交流で知られる。さらに海外 SF 小説の翻訳を数多く手がけ、世界中の SF 作家や SF ファンコミュニティと交流を持っていた。加えて、テレビアニメーション番組における科学考証を多く手がけるなど、日本のポップカルチャーに SF を根づかせた功労者である。

柴野資料にはそうした活動にまつわる貴重な史



図 1 柴野資料より、日本最初の SF 同人誌『宇宙塵』バックナンバー。

料が数多く含まれており (図 1)、これらを整理し公開することで、日本のポップカルチャー史研究への多大な貢献が期待できる。しかしながら史料点数は膨大でありその全容は明らかになっていなかった。

本報告ではこれまでの研究の進展として、柴野史料データベースの構築状況、および史料の予備調査からわかったことを報告する。

データベースの構築については、史料の予備調査の結果から作業の優先度を定めた。具体的にはコミュニティ形成の調査に資することが期待される書簡類および写真類を優先することとし、また次いで「科学考証」という分野の開拓に関連する史料群を優先することとした。これを受け、データベースに人物関連データを取り入れることを決定した。データベースには史料公開の利便性を検討した結果、「Omeka S」を採用した。Omeka S を利用するにあたって、史料登録のコストを低減し、また日本語での検索に対応すべくソフトウェアの改良を行った。具体的には Omeka S が標準で使用しているデータベースエンジンを日本語含む多言語での全文検索に対応したものに変更するようシステムを修正した。また、登録データのデフォルト値を設定可



図 2 データベースに登録された史料外観画像。データ登録支援のための二次元バーコードが記載されたラベルがあわせて撮影されている。

能とする・性質のよく似たデータの登録を簡便化するためのデータ複製機能を追加する、などの拡張を行った。加えて、史料の外観を撮影する際に資料の登録番号や種別を記載したラベルをあわせて撮影することで、撮影された画像をデータベースに自動登録する機能を開発した(図2)。これらの機能拡張を元に現在史料の登録作業を進めている。

史料の予備調査については、主に書簡類を対象に行った。その結果、推理小説作家でSF小説にも関わった大下宇陀児からの書簡が発見された。この中で小説作法やSF小説の未来についての大下の論が述べられており、日本の大衆小説史に資するものと期待される。推理小説作家との交流を示す史料として他には江戸川乱歩からの書簡もあわせて発見されており、あわせて今後重点的に調査を進める予定である。また、三島由紀夫からの書簡が発見され、その中で三島が注目したSF作品について述べられている箇所が認められた。三島へのSFの影響は近年あらためて注目されており、三島研究への貢献が期待できる。その他、国内外のSF作家との書簡で特に重要と認められるものについて現在整理を進めている。

科学考証関連史料としては、『宇宙エース』『科学忍者隊ガッチャマン』などのテレビアニメーション作品における科学考証報告やシナリオ会議の議事録などが発見された。(図3)

写真類は、その多くがSFファンの会合の様子を収めたものであり、柴野氏が撮影したもののみならず、他のSFファンから送られてきた写真が多い。特に、初期の日本SF大会の様子を収めた写真が大

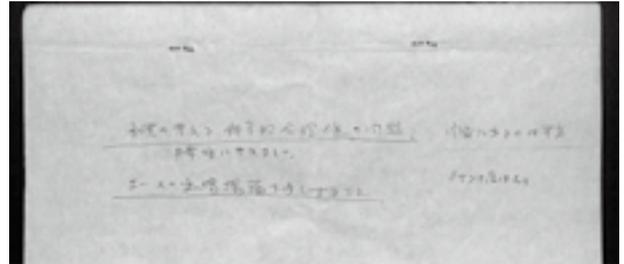


図 3 『宇宙エース』梗概の青焼きコピーの裏に書かれたメモ。

量に発見された。また、1970年に小松左京が実行委員長をつとめた「第1回国際SFシンポジウム」の記録写真が、柴野の注釈つきで発見された。シンポジウムの様子を収めた公式記録としての写真はすでによく知られたものがあるが、柴野資料の写真はシンポジウムの前後での作家間の交遊の様子が収められたものが多く含まれており、そのほとんどがこれまで存在を知られていなかったものであることがわかった。これらの写真は点数が多いため、今回の調査ではそのごく一部、約1100点を試験的にデジタル化する作業を行った。写真には存命人物も多く写っており、広く公開することは権利上十分に配慮・検討が必要であるため、写っている人物を特定し、どの写真にどの人物が写っているかをデータ化しそれを公開することが望ましい。そのため、現在は権利上の問題の解決を図るかたわら、自動顔認識エンジンを用いての人物特定のための仕組みの開発を進めている。

今期の研究ではここまで報告した通り、柴野資料の予備調査とデータベースシステムの開発を行った。その結果として同資料には日本の文学史・ポップカルチャー史の研究に資する重要資料が多く含まれていることがわかった

今後の計画としては、同資料の重要性に鑑み、データベースへの登録作業を引き続き行い、また数年内のデータベースの公開を目指す。なお、資料点数が多い一方でコスト上の問題から、重要度の高いものから作業を行う必要があるため、新型コロナウイルス感染症の沈静化を待った上で、関係者への聴取調査を早い時期に再開したいと考えている。